

# いしだ 石田 はきょう 波郷 (1913~1969)



俳人。温泉郡垣生村(現、松山市)出身。本名は哲大。愛媛県立松山中学校(現、県立松山東高等学校)在学中に同級生の中富正三(大友柳太朗)の勧めで俳句を始め、村上霽月の今出吟社の句会に参加。五十崎古郷に指導を受け、水原秋桜子主宰の俳誌『馬酔木』に投句を始めると秋桜子門下の代表的俳人となった。その後、昭和7(1932)年に上京して多くの俳人や作家と交流、俳誌『鶴』を主宰して人間探求の句を主導し、中村草田男、加藤楸邨らとともに「人間探求派」と呼ばれた。

しかし、太平洋戦争が勃発すると、昭和18(1943)年、徴兵され戦場に赴いたが、慣れない軍隊生活と過労から重い結核に罹った。その後、生涯にわたり入退院を繰り返しながら闘病生活を送ることとなるが、それらの体験を通して自分を見つめた数々の素晴らしい俳句が生まれた。「遠く病めば銀河は長し清瀬村」の句が収められた昭和25(1950)年刊行の句集『惜命』は、闘病俳句の最高傑作と称えられた。

また波郷は、総合俳誌『現代俳句』の創刊、現代俳句協会の創立など、戦後の近代俳句の再建に力を尽くした。

## 略歴

大正2(1913)年3月18日	温泉郡垣生村西垣生に生まれる。
昭和4(1929)年	愛媛県立松山中学校に入学。級友の中富正三の勧めで俳句を始める。 村上霽月の今出吟社の句会に出席
昭和5(1930)年	愛媛県立松山中学校卒業。五十崎古郷に入門、「波郷」の号を与えられる。
昭和7(1932)年	『馬酔木』の巻頭をとる。2月上京する。
昭和9(1934)年	明治大学に入学。『馬酔木』の編集に参加する。
昭和10(1935)年	句集『石田波郷句集』を刊行
昭和12(1937)年	俳誌『鶴』を創刊
昭和14(1939)年	句集『鶴の眼』を刊行
昭和18(1943)年	軍に召集され、華北に渡る。
昭和19(1944)年	胸を病み野戦病院に送られ、兵役免除となる。『鶴』休刊
昭和21(1946)年3月	『鶴』復刊
9月	『現代俳句』創刊
昭和22(1947)年	松山に帰郷。高浜虚子らと現代俳句協会を創立
昭和34(1959)年	中村草田男、星野立子とともに「朝日俳壇」選者となる。
昭和44(1969)年11月21日	56歳で永眠

(写真提供：石田和弘氏)

### 〈関連図書〉

- ・石田波郷『惜命』 作品社 1950年
- ・石田波郷『定本石田波郷全句集』 創元社 1954年
- ・石田波郷『石田波郷全集』(全8巻) 角川書店 1971年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第14巻 村上霽月・松根東洋城・石田波郷』  
愛媛県教育会 1986年
- ・石田修大『わが父波郷』 白水社 2000年
- ・辻井喬『命あまさず 小説石田波郷』 角川春樹事務所 2000年
- ・「石田波郷 人と作品」編集委員会『えひめ発百年の俳句－郷土俳人シリーズ⑨ 石田波郷 人と作品』  
愛媛新聞社 2005年

〈ゆかりのある場所〉…(P316, 211)

〈関連施設〉…石田波郷記念館

〒136-0073 東京都江東区北砂5-1-7 江東区砂町文化センター2階 TEL:03-3640-1751